

2014 年度春学期 授 業 評 価 報 告

科 目 区 分 名	日本語日本文学科 科 目
-----------	--------------

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

今回の結果は昨年と比べ、④の「授業外学習」以外はすべて改善が見られた。

回答者の延べ人数による平均値で言えば、⑤「教員の話し方は聞き取りやすい」が 4.21 (4.08=全学)、①「授業内容が理解できた」が 4.15 (4.10=全学)、③「知的好奇心が刺激された」が 4.09 (4.02=全学) と評価が高いことを考えると、全般としては日本語日本文学科科目は適切な水準のものが提供されているといえるであろう。

どの項目にも科目間の差異はあるが、「理解できた」度合、「意欲的に取り組んだ」度合に関して科目毎の平均値を見ると、各種の演習の他、フィールドワーク、書道、創作、編集技術などアクティブラーニング系の科目や日本語教育関係の科目が概して高い評価となっている。その他の科目でも大部分は両項目とも 3.5 以上であり大きな問題はない。理解度がやや低めの科目は少数見られるが、それらの多くは「レベル」が高いと評価される授業であり、このような科目もある程度は必要と思われる。ごく一部、「レベル」があまり高くないのに理解度が低めの授業があり、これについては何らかの検討が必要である。

また例年の事ながら、④「授業外学習」が、延べ人数での平均値で 0.50 (0.65=全学) と全学と比較して低めである。科目毎の平均時間で見ると、30 分未満の科目が 3 分の 1 程度あるが、その大部分は講義である。講義で授業外学習時間が少ないのは、授業時間内で十分理解が進むからとも考えられ、必ずしも問題があるとは言えない。ただ、一部の講読で授業外学習時間の短い科目があるが、恐らく講読としては受講者数が多すぎるためと思われる、授業編成面での検討が必要である。

なお、DWCLA10 においては思考力と分析力が身についたという学生が他学科と比較して多いが、学科の性質上、当然であろう。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。

教育・研究推進センター